

山に関する言葉の記憶

OB 会会長 22 期 黒崎 敏男

学生時代のことですが、当時は頻繁に山に関する本や雑誌を読んでおり、何を読んだのか今となっては不明ですが「登山は精神的な行為である」というフレーズをその部分のみが切り取られたように記憶しています。

もう一つは、自分が参加している山岳会の懇親会での偉い人の言葉ですが、共通の知人について「あの方変わってますよね。」と自分がしたコメントに対しての「当たり前だ、山なんか行く奴に変わっていない者なんかおらん。」という返事という言葉です。

いずれもわざわざ困難を自らに課し、危険を承知で利益にもならない行動をする人間に対する一つの見方を表していると感じ、今に記憶があります。

この年になると最低限の登山しかできなくなり、山への思い入れも少なくなっていますが、それでも山に惹かれるイメージが多少なりとも存在するのは、自分だけでなく、当 OB 会会員の皆様に若い頃あった共通の性質から来ているのではないかと思うところです。

そうはいっても体力気力の衰えは明白ですので、最近の山行では決して途中で諦めないよう自身を叱咤激励しながらだましだましの登山です。高三郎山もいつまで登れるかという感じですが、同じように考える会員におかれてはそろそろ最後の高三郎、山小屋訪問を計画して頂きますならば、当方としても最大限支援しますので、遠慮なくご連絡ください。

次回の春の小屋作業は来年 5 月前半を予定しますのでご検討ください。

前号でお知らせした部誌「Bergheim」や OB 会報「やまざと」等の大学図書館への寄贈又は OB 会での保存に関しましては、長岡さん(11 期)、舟田さん(15 期)、奥名さん(15 期)からご協力を賜り、必要な対応ができました。厚く御礼を申します。引き続き対応しますので、お手元の古い資料の寄贈のご希望がある方はぜひ会長あてご連絡ください。

また、前号お知らせした、本誌の在り方や山小屋の今後についてもいくつかご意見を頂戴しましたので今回紹介するとともに、次期総会での何らかの提案とすることを目途として内容を整理して行きたいと思います。これに関してもぜひご意見をお寄せください。

私自身もできるだけ多くの会員の皆様と直にお話しする機会をもつよう努力しますので、お会いできた暁には忌憚のないご意見を承りたく存じます。

何卒よろしくお願い申し上げます。